大阪市立大学『人権問題研究』第19号，2022，pp.143～169
Print ISSN 1346－454X
Online ISSN 2435－1016

トランスジェンダー・バッシングを超えて

仲岡　しゅん*

＜古久保＞

サロンde人権161回目は「トランスジェンダー・バッシングを超えて」ということで、弁護士の仲岡しゅん先生をお迎えして話題提供をしていただき、一緒に議論していきたいと思っています。

私自身がウィメンズ・アクション・ネットワーク（略称WAN）というNPOを運営しているんですが、WANでは2020年の夏に一つのエッセイを掲載いたしました。アップされた時点では私は、そのエッセイではトランスジェンダーの人たちと女性たちとが、ともに安全を守るためにはどうしたらいいか、という問題提起が書いてある、というふうに思いました。けれども、このエッセイがアップされて以降、トランスジェンダー当事者から、このエッセイは非常に差別的であるということを何度も指摘され、私自身学習していく中で反省した、という経験をしました。

その一方、現状において、SNS特にツイッターを中心とした、トランスジェンダーを巡る、もはやバッシングと言ってもいいんじゃないか、あるいはヘイトと言ってもいいんじゃないかというような、ひどい言説というのが、どんどん拡大しているようにも感じるところです。そこで、今日は、フェミニストたちが、（本当に主張しているのがフェミニストなのか、分からないところもあるんですが、）「女性の安全」にからめてトランスジェンダーの人とは相いれないんじゃないか、みたいな議論をする、その状況について、どうやったらこんな不毛な争いを乗り越えられるのだろうかということも含めて、議論できないかなと思って、仲岡さんにお越しいただきました。

私としましては、この問題に関して、顔の見える集まりで、自由に闊達に、素朴なことから高度な学問的な話まで、一緒に議論できる場を作るということがすごく大事じゃないかと思っています。本日、（コロナの関係でマスクをしているので半分しか見えないわけですが）、顔の見える関係の中で議論ができるということを大変うれしく思っています。

それでは、すでに皆さんもテレビなどでご存知だと思いますけど、仲岡先生に自己紹介していただいて、それから話題提供をお願いしたいというふうに思います。よろしくお願いします。

＜仲岡＞

みなさん、こんにちは。ご紹介いただきました弁護士の仲岡と申します。簡単に自己紹介させていただきますと、古久保先生とは大阪市立大学のころから、長いお付き合いなんですけれども。学生時代はご存知の方もいらっしゃると思うんですけど、ヒゲ生えてました。現在、こうなってるんですけど、トランスジェンダー当事者であるんですが、今現在西天満、ここから歩いて15分ぐらいですかね、弁護士事務所やっています。今日は、トランスジェンダーの当事者として、また法律家として、いかにトランスジェンダー・バッシングというものが間違っているか、日本の法律実務に照らして間違っているかということをお話ししつつ、あるいは、この問題って多分あまり深く知らない方も多いと

思うんです。なので、そもそもこのヘイトの問題から入って、基本的なトランスジェンダーの人権問題だとか、そういうところまでお話を広げていこうと思っていますので、よろしくお願いします。

そしたら本題に入ろうと思うんですが、今日のタイトル「トランスジェンダー・バッシングを超えて」ということですが、今、特にインターネット上で、トランスジェンダーに対してひどいバッシングがなされているということをご存じの方、どのくらいいらっしゃいますかね。多分、インターネット、ツイッターに詳しくない方は、「それ、どこで起きてるの？」と思われるかもしれません。ですが、今実際に国政レベルで、政治レベルで影響を及ぼしている課題でもあるんですね。

最初にお断りさせていただきます。これから映します資料[1]に、トランス差別主義者の主張、そのもの映します。その中には下品な表現ですとか差別的な表現も含まれます。これ、実情を示すためにあえてそのまま記載しているんですけど、見ることでしんどくなる可能性があるとも思っています。なので、もししんどくなった場合には、遠慮せずに出て行ってください。全然失礼に思いませんので。そういった生の現実をまずお見せしたいというふうに思っています。そしたら、今日の流れというかスケジュールをお伝えしておきます。今日、２時間って時間があるんですけど、さすがに２時間ぶっ続けにやるのはしんどいと思いますので、１時間ぐらいで休憩を取りたいと思っているんですね。私の話、１時間30分ぐらい話をさせてもらって、残り30分ぐらいはデスカッションみたいなことができればいいなと思っています。今日のスケジュールですが、先ほど申し上げた、トランスヘイトの実例とその特徴ですね、それから、それがいかに日本の法律からしても間違っているかというファクトチェックもしていきます。最後に、そもそもトランスジェンダーの人権問題、おかれている実情や制度についてお話していこうと思っています。

今、ヘイトというものがネット上ですごくでてきているというのは、やはり当事者の実情が知られていないからなんですね。特に、医療や、お手洗いの問題って、個人にとって生きる問題ですよね。そういったことを、ぺらぺらぺらぺらしゃべりたい当事者がそれほど多いかというと、体や、排せつに関することですから、そういったことを好んで表明したがる方はそれほどたくさんいないんですよ。そういったことから生じる無理解というのが、今のヘイトにつながっているんじゃないかなというふうに思っています。お手元に資料お渡ししてるんですけど、お手元の資料にはあえてヘイトの具体的な中身は載せていません。今日、このスライドの中で出てくるんですけど、やはりそういったものを持って帰られるのは、気持ち悪いと思うのであえて載せていません。この場限りにさせてもらっています。

ネット上でのトランスヘイトの具体例

先ほどから申し上げている、ネットでのトランスヘイト、どういったものがあるのかというのを、まずは典型的なものをいくつか見ていただこうと思います。まず、これツイッターです、あるツイッターアカウントの投稿なんですけど。「トランス女性はしょせんスケベ野郎だと思います。だから同じ女性スペースを共有したり、同じ立場で反性暴力デモはできないです」。このアカウント、いわゆるフラワーデモを自称するア

カウントなんです。実際は、このフラワーデモからパージされているんですけど、フラワーデモをトランス女性とは一緒にできないと書いてあります。その理由として、スケベ野郎だから。あるいは、これも同じアカウントですね。「トランスジェンダーじゃねえよ。自称女の男だろう。手術してもホルモン投与しても体は男なんだよ。心の性ってなんなんだよ」。こういうふうに書いているわけですね。こういったものが典型例です。トランス女性はこうであると。十把一絡げにこう書く。こういったものがあります。

あるいは、次ですね。これも典型的ですね。「『女性と名乗ればだれでも女性になれる』これがトランスジェンダリズムです。これが導入されれば、女性にとって本当に残酷な現実がやってきます。ほかの方々の言葉を借りますと『女性の権利は今までにないほど後退する』『女性は詰む』んです。このような思想に加担しないでください。お願いします」。意味わかりますか？トランスジェンダリズムというものがあって、それによって女性にとって、非常に残酷な現実がやってくる。権利が後退する。こういうふうな主張をしている投稿があるんですね。トランスジェンダリズムって、パッと聞いても意味が分からないと思うんです。このあと解説します。

あるいは、右、これ見てください。「TRA、つまりトランスジェンダーの権利運動を支持する活動家（Transgender Rights Activist）は、このような世界を目指しています」。で、この画像ですね。どんなことを書いているかというと、これ女性トイレの絵なんですよ。女性トイレの絵の中で、男性っぽい、いわゆるオカマキャラクターが、「おしっこと生理の匂いだ」とか、「お、美人が出てきたところに入ろう、経血ナプキンあるかな」とか、こうして言うのも気持ち悪いですけど、こういった現実が生じると言っているんですね。つまり、トランスジェンダーの権利擁護の活動家が求める世界とは、こういった、女性と称する男性たちが入ってきて、性暴力やわいせつ行為をするものなんだ、と。こういうような画像を流しているわけです。こういったことを見せられると、やはりトランスジェンダー当事者としては、非常に深く傷つくわけなんですね。この活動家というのがどういった、誰をさしているのかわからないですけど、こういったことを目指している活動家はおそらくいません。なのに、こういった、トランス活動家はこういったことを目指しているんだということを出しているんです。

トランスジェンダリズムという謎の概念

こういうような投稿が目立つわけですね。これが典型例でした。どんなものかというのをイメージしていただけましたかね。要するに、女性の安全と権利とやらを建前にして、トランスジェンダーをバッシングする。そういった投稿が、今何千、何万とネット上を駆け巡っているというわけです。そこで、先ほどから出てきた言葉の中に、トランスジェンダリズムという言葉が出てきました。これ聞いたことありますかね。先ほど、こういったものが出てくると、女性は抑圧されると書いてありましたが、これ何かというと、トランスヘイターらが危機感を煽り、批判する謎の概念です。

「トランスジェンダリズムとは」と題した怪文書が、今現在政党や研究者に送付されています。ただ、それを読んでも、トランスジェンダリズムとは何かわかんないんですよ。トランスジェンダリズムって何ですかと聞かれても、私もわかりませんとしか言いようがありません。なの

に、こういったものが今、ネット上で駆け巡っているんですね。

どうも推察するに、詳細は不明ですが、女性であると自称すれば女性になるという主義主張のことを指すようです。例えば、男性がある日突然、「今日から俺、女」と言ったら女子トイレにも女湯にも入り放題になってしまう、という主義主張らしいです。しかし、おそらく一般当事者のほとんどは「なに、それ？」状態なんですよね。トランスジェンダリズムという言葉を知っているというか、あえて好んで使っている当事者はほとんどいないと思います。当事者界隈でほとんど知られていないものが、ネット上ではあたかも実在するかのように駆け巡っているんですね。ちなみに、そう言いますと、いやいやトランスジェンダー当事者から、「トランスジェンダリズム宣言」という本が出ているじゃないか、というようなことをヘイターたちが言うんですけど、確かに20年近く前に「トランスジェンダリズム宣言」という本が出版されています。ですが、そこでのトランスジェンダリズムという意味と、今現在ヘイターたちが使っている、女性だと自称したら女性になれるという主義主張、これはかなり違います。というのは、「トランスジェンダリズム宣言」というのは、約20年前の、性同一性障害特例法制定の際に、GIDという概念、つまり性同一性「障害」という疾患概念を使うのか、それとも当事者の自己決定権、そういった考え方を取るのか、そういった論争の時代の本なんですよね。なので、おそらくこの本を読んでも、今日から女といえば女、みたいなことは書いていないですよ。なので、かなり違うものがあたかも、あるいは当事者が知らないものがあたかも実態があるかのように、ネット上で喧伝されているということですね。なおかつ、それによって、トランスジェンダーというものが危険視されているというような状況があるわけです。

TRAとTERF

それから先ほど出てきました、TRA、これトランスライツアクティビスト、トランスジェンダー活動家という意味で使われているんですけど、どうもトランスジェンダーの権利擁護に熱心な活動家や研究者を指すらしんですね。で、非常に頻繁に、トランス活動家がこう主張している、トランス活動家は女湯にトランスジェンダーを入れようとしている、こういったことがまことしやかに語られるんですが、ですが、そもそも具体的に誰がこのトランスライツアクティビストですかというのが不明なんですよね。当然トランスジェンダーの権利擁護を活動しておられる方は複数います。場合によっては私なんかも、弁護士ですけれど、そういうふうに言われることあるんですよね。ですが、じゃあ具体的にどこの誰が、男性器をつけたまま、トランス女性が女湯に入れるべきだと言っているんでしょうか。もちろん中にはそういったことを言う方もいるかもしれませんけど、決してメジャーなものではありません。なのに、要するにスケープゴートですよね。あるいは陰謀論と言えるかもしれません。といったことがネット上で駆け巡っていると言うわけですね。

次なんですが、こういったトランスジェンダーというものを危険視する人たちのことを、いわゆるターフ（TERF）と言うんですね。意味何かと言いますと、Trans-Exclusionary Radical Feministのことを言うんですよ。日本語で言いますと、トランス排除的ラディカルフェミニストというふうに言われています。しかし、私は、こういっ

たトランスヘイターの人たちが本当にフェミニストと表現していいのかというのはかなり疑問に思っています。私は、トランスヘイターとかトランスフォーブ、そういったように表現しているんですね。というのも、実際にはこの問題の本質というのは、女性とトランス女性の対立関係ではないんですよ。実際には、この女性の権利擁護とトランスの権利擁護というのは、むしろ重なる点が多いわけなんですね。先ほどから出てますように、トランス女性が女性の権利を侵す、トランスジェンダリズムが女性の安全を侵すと言われていますが、実際には、この社会の中での性暴力に遭いやすいリスクですとか、男性中心的な社会の中で差別的な事態が起こりやすい、そういった立場、そういったところって実は重なるんですよ。なおかつ、TERFのなかには、実は男性ですとか極右のアンチフェミも少なくありません。先ほどから申し上げているように、女性対トランス女性ではないんですね。ヘイターの中には男性も含まれます。あるいは、フェミニストだけじゃなくて、極右も実際には含まれるわけです。

例えば、数ヶ月前にこんな発言があったのを覚えていますか。政治家の中で。トランスの権利なんか認めると、女性と自称した男性が、女子トイレとか女湯に入り放題になる、こういったことを言った政治家がいましたよね。あれだいぶ極右の政治家でしたよね。なので、決して、こういった対立関係ではありません。むしろトランス女性をスケープゴートにして、そういった被差別者同士を分断している、こういった状況があるんじゃないかなと思っています。

じゃあここから、トランスヘイトに関する具体例をあげながら、それがいかに間違っているのかということをファクトチェックしていきたいと思っています。

トランスヘイトのファクトチェック

まず類型１です。トランスジェンダリズムの陰謀論というのがあります。左見て見ましょうか。「トランス擁護派の弁護士が、性交同意年齢引き上げや不同意性交を性犯罪にと頑張っているのを見ると残念だ。トランスジェンダリズムがペドフィリアに繋がっていたり性交同意年齢を撤廃しろといっているのを知らないんだろうけど」って書いてあるんですね。トランスジェンダリズムがペドフィリアと繋がっている、そんなことありません。しかもこのトランス擁護派の弁護士、一体誰やねんって話なんですよ。どこの誰やねん。私なんかも、トランスジェンダーの方の弁護をよく引き受けてますけれど、そんな主張したことありませんし、ペドフィリアを称賛したこともありません。なのに、こういったいわゆる陰謀論ですね、こういったことがまことしやかに投稿される。

あるいは、右見てください。「世界を新しい中世に引きずり込もうとするトランスジェンダリズムは、あらゆる進歩的価値を破壊する。女性の地位・権利・安全、女児をはじめとする子どもの安全と尊厳、同性愛者の権利、民主主義や熟議は言うまでもなく、科学と心理、表現の自由、スポーツの公平さ、暴力や誹謗中傷にさらされない権利、等々」。どんな恐ろしいものなんだ、トランスジェンダリズムっていうのは。

先ほどから申し上げているように、トランスジェンダリズムなどというものを聞いたことがある当事者ってほぼいません。なのに、こういったものが、あたかもこんな恐ろしいものかのように喧伝されているんですね。で、しまいには、「この強大で情け容赦のない敵には勝てない。『ト

ランスジェンダリズムvs人類』という構図にしないと」。トランスジェンダリズムってゴジラかなんかですかって話ですよ。しかも、これが恐ろしいのは、これを投稿している中の人です。ネット上の有象無象ではないです。中の人はマルクス主義フェミニスト学者なんです。つまり、大学で教鞭をとっているような研究者が中の人になって、こういったことを投稿しているわけですね。まさにこれ陰謀論なんですけど、だけど、こういった学者が書いているとか、そういったところがお墨付きになって、かなりリツイートされてるわけです。だからトランスジェンダリズムという言葉が出てきたときには、陰謀論だと思ってください。

次です。性犯罪者と区別がつかない論です。先ず左です。「トランスジェンダーと性犯罪者とどうやって区別つけんだよ」と書いています。

トランスジェンダーの中でも、トランス女性は、その人の状況によって女性トイレ使いますし、トランス男性もその人の状況によって男性トイレ使うことは当然あります。ですが、それと性犯罪とは関係ないはずの問題なんです。わかりますか？私もトランスジェンダーの当事者ですが、女性トイレ使うこと当然あります。ですが、それは決して犯罪目的とかでは全くなくて、単にトラブルのないような使い方の一つなんですね。ところが、そういう人が入ってくると性犯罪者と区別がつかないと。確かに、女性トイレをのぞき目的の方とかもいらっしゃるかもしれません。しかしながら、トランスジェンダー＝犯罪者じゃないんですよ。明らかに。なのに、違うものを一緒くたにして、区別がつかない、だからトランスジェンダーも排除しましょう、こういった文脈で、投稿が非常に多くされるわけです。

さらにひどいのが右側です。口に出すのがはばかられるような話なので、読みませんけれど、こういうことをやる人とトランス女性の区別がつきませんと。これは行為の問題です。トランス女性かどうかというのは、属性の問題なわけですね。当然ながら、トランス女性が盗撮したら盗撮です。あるいは女性が盗撮しても盗撮なんです。なのに、行為の問題と属性の問題を混同して、区別がつかないと言っている。こういった投稿がされています。さらには、「あと女に加害するためなら性転換オペするオスは確実にいるからな」と。恐ろしいですね。性暴力をするために手術をするんですか、と。聞いたことがない。これも典型的なんですけど、こういったものがありますね。

次、「トランス女性と自称して侵入してくるんです」。「性『自認』で温泉やトイレに入れるようにしてしまうと、シス男性がトランス女性だと偽って、温泉やトイレに入って女性を加害することができてしまうし、加害した男性が自らをトランス女性だと言い張ることによって、罪は問われなくなるかもしれないということを心配しているのに何が差別だよ」と書いてあるんです。ですが、トイレや温泉の使い方について、後で詳しく出てきますけれど、当然ながら、まだ手術しない段階、オペしない段階で女湯に入ったらどうなるかというと、当然、見つかったら出ていけといわれるの当然ですよ。当たり前です。あるいは、トイレ、どっち使うかというと、トラブルがない方を使っているというのが実情なんですよね。なのに、男性が、俺はトランス女性や、と言ったら、何もおとがめなし。そんなことありえますか。そんなことありません。あるいは、加害した男性がトランスジェンダーだと言い張ることで罪に問われなくなる。例え

ば、痴漢しました。それで、俺トランス女性やから無罪や、なるんですか。ならないですよ。繰り返しますが、こういった性暴力、性加害というのは行為の問題です。属性の問題ではありません。当然ながら女性が女性に対してやっても犯罪になりますし、男性が男性に対してやってもなるんですよね。なのに、ここでも、行為の問題と属性の問題を混同して、こういったことを、あたかもトランス女性と偽っている者が恐ろしいものかのように、喧伝される。

恐ろしいのはこれ、2507いいね、ついているんですよ。こういったものが流通してますね。あと、森喜朗会長の失言、ありましたよね。あれに対して「LGBT活動家界隈が批判しているのを見て唖然としている」、と。「お前ら自称トランス女性が女子トイレや女風呂問題で女性に危機感を与えてることも批判しろよな」と、こういうような投稿もあるわけですね。これ119いいねがついています。

ここまでは典型的なトランス排除論だったんですけれど、さらにひどいのは、様々なデマや捏造記事が投稿され、それが千いくつリツイートとか、２千いくついいねとか、そういうレベルで流通してるんです。

まず、左ですね。これは何の画像かというと、テレビ番組のワンカットみたいな感じですよね。この中で、「合法？」と。「女装で女湯に50分侵入した50歳男を容認」と。心は女ですと。この女装した人が女湯に入って、だけど心は女ですと言った。そうすると女湯の施設側の男性が、あ、心が女なら女性なんですね、ではどうぞ、と。それに対して、女性が、あなた男性ですよねと注意すると、差別主義者とみなされます。と主張する画像です。

これを見た事情知らない人たちどう思うでしょうか。「心は女や」とさえいえば、チンチン付けたまま女湯に入って、それで注意した側が差別主義者だと、なんと恐ろしいんだと思うかもしれません。ですが、この画像、加工画像です。確かに、女装した男性が侵入しました、それで逮捕されました、そういうニュースだったんですよ。ところがそれを、かなり改変して、台詞とかを変えて、注意する方が差別主義者だとみなされますよというふうに、正反対の意味に書き変えているんです。しかしながら、ネット上の人たちってメディアリテラシーないものですから、それがこれだけリツートされて宣伝されてしまう。それによって、心は女性だっていうのは恐ろしいんだ、こういうようなことが煽られるわけですね。

それから、右側です。これはかなりツイート数が多いんですけど。これ画像の文字が小さくて読みにくいと思うので、趣旨だけ説明しますね。これ何書いているかというと、CIS PREGNANCY IS TRANSPHOBIC と書いてあるんですよ。つまり、シスジェンダー、トランスジェンダーじゃない女性、いわゆる一般的な女性が妊娠することも、トランスフォビアなんだと書いてあるんですね。言うまでもないですが、妊娠することがトランス差別でしょうか。全く違いますよね。なのに、この投稿では、あたかもトランス活動家の人たちがこういったことを主張しているかのように引用して、ノーコメントという泣きの絵が入れてるんですよ。もっと見ていくと、そこに書いてあるの、ちょっと小さいですけど日本語で言います、要するに、妊娠してもあんまりそのことをおおっぴらに言わないでください、あるいはネット上に画像をあげたりだとか、あるいは肯定的に言わないでください、それによってトランスジェンダーの女

性が傷つくじゃないですか、だから配慮しよう、というようなことが書かれてあるんですよ、ここには。こういったことが、あたかもトランス活動家が投稿して、妊娠した女性は差別主義者だと言っているかのように引用しているんですが、当然これデマです。この画像、これほんまかいなと私も思いまして、裏どりしようと思って色々探してみたんですよ。ところが、出所はこの投稿しかないんですね。どこかのLGBTの団体がこんなことを言ってるかというと、言っていません。これが出所なんですね。あたかも何処かから引用してきたかのように見えるでしょう。さらに、遡って行くと、これは冗談で言っただけなんだ、みたいなことを書いているんですね。なのに、こういった、トランスジェンダーってこんなわがままなんだと、いうものがこれだけたくさんリツートされている。しかも、リツイートされて、これがデマだったということは検証されずに、流通している。こういった現実があります。

あるいは、さらにこんなのが・・みなさん、もしこんなのを読んでしんどかったら出ていってもいいですよ。さらにやばいのが、なりすましアカウントですね。トランスジェンダーの女性というふうなことになりすまして、非常に過激なことを言う。なおかつ、それが先ほどのトランスヘイトの人たちに引用されて紹介されるという自作自演がなされています。一体どんなものでしょう。これ、一連の投稿になってるんですけど、このアカウントというのは、いわゆるトランスヘイトのアカウントなんです。このトランスヘイトのアカウントが、画像を引用してきて、「なんでこんなに邪悪なの？云々」ということを書いているんですが、この画像が引用されているアカウントというのが、性同一性障害で戸籍を変更しました、というアカウントを引っ張ってきているんですね。戸籍を変更した女性です、というアカウントです。で、内容を見て、「これが女？本当に？」と言ってるんですが、じゃあこの自称「トランス女性のアカウント」が何を言ってるかというと。自称トランス女性のアカウントですよ、性別変更して戸籍まで変更したという自称トランス女性のアカウントです。「平成28年５月11日は私がレズ風俗の女の子を強姦した容疑で指名手配された日です。４月26日にタイに行く直前に筆下ろしと筆納めをしたくて襲ってしまいました。そのまま渡航し５月30日に帰国したら成田空港で逮捕状を読み上げられ、そのまま連行されました」。要するに戸籍変更したトランス女性が、風俗の女性を強姦しましたと。逮捕されました、と書いてあります。恐ろしいですね。さらに、「私はレズ風俗で物の弾みで本番をしましたが」、さっきの事件ですね。被害者が「弁護士にすら連絡先や本名を教えなかった為、弁護士がトー横に張り込んで他の客と待ち合わせてるところで接触し300万を提示するも拒否されたので供託してます。執行猶予がついたので還付したら、還付した慰謝料をよこせと訴えられてます。300万が欲しかったのなら謙虚に受け取ればよかったのです。そして示談にすればよかったのです。それをしなかったから私は前科持ちになったのです。その苦労を知ってかしらずか、今になって慰謝料をよこせという後出しジャンケンが許されるとガチで考えてるバカと遊んだ私もバカでした」。これだけ読むと、トランス女性というのは、手術をして戸籍まで変えてもなお、こんな邪悪なことをやってるんだ、ということがこれだけリツイートされるわけですよ。

ですが、これは、読む人がよくよく読めば、

かなり不自然な点があります。まず一つ、４月26日、これタイに行く直前なんでしょう。タイではこういうのやってますから、タイで手術をして５月30日に帰国しているんですよ。１ヶ月以上タイに滞在していますよね。タイで性別変更手術をする場合、一般的には日本のアテンド会社の紹介を受けて、タイで滞在して入院するんですが、だいたい２、３週間です。滞在期間は。１ヶ月以上になっちゃうと、別途ビザが必要になってくるんです。わかります？だけどこれ、１ヶ月以上滞在していますよね。普通、オペするために行って、別途ビザ必要なのに、１ヶ月以上滞在しません。それからここですね、被害者が弁護士にすら連絡先や本名を教えなかったから示談できなくて、弁護士がわざわざ張り込んでいる。これ、弁護士の実務を知っている人からすれば、あり得ないです。というのも、私も刑事弁護とかありますけど、被害者の名前というのは、起訴状に書いてあります。あるいは起訴前に示談交渉する場合は、警察官から、警察官も当然被害者の承諾をとった上で、警察官から被害者の連絡先とか本名を教えてもらって、それで、すみません、示談させていただけませんか、というふうにやるんです。当然ながら、トー横に、来るかどうかも分からない人、名前すらわからない人を張り込んで示談してくれって言いに行く弁護士、どこにいるんでしょうね。そんな人がもしいたら、着手金１億ぐらい払わないといけないんじゃないかな。だって、首飛ぶもん。しかも、「300万提示したけど拒否されたから供託してます」。これ供託するのにどんな手続きが必要でしょうか。供託というのは法務局でするんですね。こういう慰謝料の場合は、被害者の住所地を管轄する法務局なんです。そうすると、被害者の本名や住所を知っていないと、どこに供託していいかわからないですね。わかります？あり得ないんですよ。なので、これが嘘っぱちだということは、私のように実在の弁護士からみれば、いかに嘘かということがはっきりわかるんですけど、しかし、世の中の人は、「え、こんなことするんや」と。「こんな邪悪なことするんや」となって、あたかも本当であるかのようにリツートされるわけですね。あるいはここで、「示談しても良かったんです」と書いてありますね。紹介しませんけど、別のツイート見てみると、「示談した」とも書いてあるんですね。同じこのアカウントの中で話が二転三転していたりとか、矛盾が生じているんです。ところが、先ほど申し上げたように、一般の方は、こういうことが実務上あり得ないことがわからなくて、これだけまことしやかに、トランス女性は危険だということが宣伝されるわけですね。

特定個人への誹謗中傷

さらに、特定個人へのデマや誹謗中傷まで及んでいます。左です。これ、「＃パンテーンはもう買わない」って、書いてありますね。パンテーンってわかりますよね。CMでやってますよね。シャンプーとかのメーカーですよね。シャンプーのCMにトランスジェンダーのモデルさんが出演されているんです。で、このトランスジェンダーのモデルさんが、最近のトランスヘイトに耐えかねて、こういうことを投稿したんです。これモデルさんの投稿ですね。「トイレも自由に入れない人に本当に特権なんてあると思うの？」と。「トイレも自由に入れない人に、本当に特権なんかあると思うんか!?あぁん!?」というふうに虚空に向けてつぶやいたんです、投稿したんです。そうすると、これがものすごいバッシングを受けて、典型例はこうですね。「完全にヤクザ。ト

ランスヤクザ。女性がトイレ利用に不安を抱く気持ちなどわかろうともしない『男の中の男』である」と。「こんな男をCMに使う御社の精神を疑います」。これ典型例ですけど、こういったものが、何百もこの当事者のアカウントにグアッと寄せられるわけなんです。それで、「パンテーンはもう買わない」。

本当に、これは特定個人に対する誹謗中傷ですよね。この方、別に、女トイレに無理やり入らせろと呟いたわけでも全くない。単にトイレに不自由しているんですよと言うだけなのに、こんなことがわあっとくる。こういうようなネット社会になっちゃってるんですよね。

さらにはこれ、私自身に対するデマ投稿です。「『人類皆変態だからしょうがない、だから我々を女性スペースへ解放しろ』仲岡しゅん弁護士がこれを言ったの？へー。『変態の群れ』を女性専用スペースに入れるなよ」。こんなこと言ってないですよ、私。言ってません。当然、女性スペースを使っていいかどうかというのは、その女性スペースの性質と、トランス女性の実情によりけりです。先ほどから申し上げているように、男性器をつけたまま女湯に入るとなると、トラブル生じるのは当事者もわかっていますよね。だけど他方で、別にトイレで性器を見せ合うわけじゃありませんので、本人の外観や生活実態で適した方を使っているわけなんですよね。ところが、変態だからしょうがないから、我々に使わせろと。そんなこと全く言ってないですよね。もう、事実無根なことが投稿されて、あたかも既成事実化していくというようなことがありますね。

医療をめぐる陰謀論

で、さらに酷いのが、医療に関するデマです。また後で詳しく出てきますけど、当然トランスジェンダー当事者の多くが医療というものを必要とするんです。どういうことかというと、例えばホルモン投与、あるいは人によっては性別適合手術、こういったことを必要とするんですけど、ところが医療に関するデマというのは、こんなのがあります。例えば「トランスを増やせば薬代や手術代で医療業界が儲かるからや。その手の企業や団体から献金もらっとるのかもな。トランスについて子どもたちに理解増進したらどうなると思う？思春期の辛さの原因を自分の性別に求め、思春期ブロッカー＆異性ホルモンを服用する。そしたら不妊児童の出来上がりや」。

このツイートが何が言いたいかと言いますと、子どものトランスジェンダーいます、当然ね。子どもの時から性別違和感抱えている子はいます。そういう子を増やして、どんどんホルモン投与とかすれば、子どもたちがみんな不妊になる、そういうことを言うんですが、これも、なんじゃこれは、なんですよ。と言うのは当然、子どもトランスジェンダー当事者、性別違和感ある当事者、いますが、そういった子どもたちに対しては、専門医というのは非常に非常に慎重、かつ寄り添って見てるわけなんですよね。当然ですよ。当たり前ですが、おままごとの好きな男の子、ああ、この子性同一性障害だ、ホルモン打ちましょう、そんなふうにはなりませんよ。あるいはサッカー好きな女の子、この子はトランスジェンダーだから男性ホルモン打ちましょう、そんな風にもなりませんよ。それ、医師としての倫理が問われますよね。ですから、実際には多くの医師は、子どもの当事者に対しては非常に慎重に、色々考えながらやっています。なのに、あたかも子どもたちにポンポンポ

ンポンホルモン打ってるかのように、嘘のことを言う。あるいは、薬代とか手術代とかで儲かるからとかよく書いてありますけども、むしろ今GIDのドクターというのは不足しているわけですよ。そんなボンボンボンボン儲かるならみんなやりますよね。

あるいは、右側です。「医療によるケアと、法による保護を求めている性同一性障害の概念とは真逆の方向で性別変更を求めているのが、トランスジェンダリズムです」。なんのこっちゃらなんですけど、このトランスジェンダリズム、性自認至上主義、と言いました。トランスジェンダリズムというのは、性同一性障害の人の医療的ケアとは違う方向であると。

一応申し上げておきますけど、性同一性障害というのは、医学上の疾患名です。トランスジェンダー当事者の多くは、性同一性障害当事者でもあります。なぜかというと、トランスジェンダー当事者が、ホルモン投与したり手術をしようと思った場合、性同一性障害という診断を受けて、それからガイドラインに則って、ホルモンとかオペをして行く。そういう流れになるんですよね。なので、実際に、トランスジェンダー当事者と性同一性障害当事者はかぶってるんですよ。

ですが、その中で、分断を図ろうとしているのか、トランスジェンダリズムというものと性同一性障害は相反するものだというように言うんですね。こんなふうなわざわざ画像まで作って、比較してみよう、と。「性同一性障害者が求めているもの」と「トランス活動家が求めているもの」こういうふうに分けている。これちょっと面白いので、ちょっと拡大してみましょう。先ほどの投稿の主ですね。わざわざこんな画像作っちゃってますけれど。性同一性障害者が求めているものはこうである、だけど、トランス活動家が求めているものはこうである、だから相反するんですよ、と。「だから、トラスジェンダリズムに対し性同一性障害当事者も闘いましょう」、みたいなことを言ってるんですが、全然違います。

性同一性障害当事者が求めているもの、「診療所の増加」、これは確かにそうですね。多いに越したことありません。あと、「障害年金支給」、性同一性障害は障害年金の対象ではありませんから。それから、「ホルモン療法＆外科的治療の保険適応」、これは確かに求めていますね。「就職支援」、これもいいでしょう。確かにこの辺は求めてはいます。

他方で、「トランス活動家」が求めているのはこういうことですよ、と示しています。「特例法の廃止」、特例法っていうのは、戸籍上の性別を変更する法律ですよね。廃止を求めている当事者、いるかもしれませんが、多くの場合は、特例法があることを前提として、要件の改正ですよね。性別変更自体をなくしましょうなんていう発想ではありません。あるいは「障害者年金の廃止」。先ほど申し上げましたけど、障害者年金はありませんから。だから廃止もクソも、ないんです、こんなもの。それから「手術要件の撤廃」。手術要件に関しては当事者の中でも様々な議論があります。当然賛成派もいるし、反対派もいるわけです。しかし何れにしても、トランス活動家の総意なんかでは全くありません。人によりますね。つまりここでいうトランス活動家とは、捏造された活動家なんです。一体誰やねんって話なんですね。なのに、こういった画像をわざわざ作って、トランス活動家をすごい黒幕かのように仕立て上げようとしている。

デマ発信を行う弁護士も

さらにひどいのが、とうとう弁護士までがデマを発信するようになりました。これ、東京第二弁護士会の森田優子弁護士という弁護士なんですけど。こんなこと書いています。「以前、『心が女性』ってどういうことかわからないというツイートをしたら散々『勉強しろ』って叩かれたので、一応勉強してみたらLGBTの『T』に関しては賛同できない、という結論に至ったんだ」。賛同も何も実在しているんですよ。実態です。賛同されてもされなくてもそうなんです。これは653いいね。さらに、なぜこんなふうに思ったのかというと、理由を述べていらっしゃる。「自分の中にある思い当たる節も、全くないことはない。学生時代にあった性同一性障害の子の印象のせいかもしれない。あの子は周囲の人に口裏を合わせるような嘘を頼んで裁判所に申請をし、性別変更が認められていた。嘘を頼まれていたのは、人の良い優しい子だった」。

要するに、性同一性障害の当事者が、口裏合わせで性別変更できました、と言ってるんですね。私もう、これ、嘘がひどすぎて、笑いますよ、もはや。多分、そのへんの制度詳しくない方いらっしゃると思うので解説しておきますが、性同一性障害の当事者が性別変更する場合、様々な要件があるんですが、その要件を満たした上で裁判所に審判を申し立てます。審判申し立てると、裁判所がこの人の戸籍を変えますというような結果が出るんです。じゃあその要件の中で、口裏合わせでクリアできるような要件があるでしょうか。ありません。

どういうことかというと、また詳しくは後で出てくるんですが、要件見ていきましょう。まずは「成人していること」です。成人しているかどうかなんか口裏合わせできませんよね。戸籍見ればいっぱつですよ。それから「婚姻していないこと」です。というのは今日本で同性婚は認められていませんから。妻が夫になったり、夫が妻になったりすると、夫、夫になったり、妻、妻になったりするんです。なので、結婚しているとできません。結婚しているかどうかなんて戸籍みればわかりますよね。あるいは「未成年の子どもがいないこと」という要件があります。これも戸籍見ればいっぱつです。それから次が「性別適合手術をしていること」。要するにオペですよね。オペというのも、出す資料の中に、医師からの診断書ですとか、あるんですよ。この人はここがこうなっていますよ、ということを、２名以上の医師が診断書を作って出すんですね。

どこにお友達と口裏合わせする要素ありました？全て、戸籍みたいな公的資料や、あるいは医師のちゃんとしたかなり詳しい診断書を見て判断するわけで、口裏合わせしようと思ったら、専門医二人と口裏合わせするか、裁判官と口裏合わせするか、それしかないです。さて、２名以上の専門医と口裏合わせできる当事者がいるんでしょうか？そんな医師がいますか？そんな裁判官がいますか？嘘ですね。で、恐ろしいのは、法律を知っていれば誰でもわかることを弁護士が言うんですよ。もうこういうレベルにまで至っています。で、この弁護士は全然訂正しておりません。今でもトランスヘイトを垂れ流しています。

さらには先ほどの、同じ弁護士の投稿です。「女装趣味の男性もトランス女性に含まれる？」と書いてある。こんな投稿していますね。「LGBTの『T』って、今のままだと女装趣味の男性もトランス女性に含まれることになるの、知ってる？」と。わかります？男性が女装して、犯罪

目的で、女湯とかに入って、それもトランス女性になるんですよって言ってるんですが、さてこれは本当でしょうか？ここで国連の定義見てみましょう。だいたいこういう人たちって国連の定義持ち出すんですよね。

じゃあ国連の定義、なんて書いてあるか。Transgender（sometimes shortened to“Trans”）is an umbrella term used to describe a wide range of identities whose appearance and characteristics are perceived as gender atypical - including transsexual people, cross-dressers（sometimes referred to as“transvestites”）, and people who identify as third gender. 何が書いてあるかというと、要するに、ここの段というのは、非典型的なジェンダーの特徴を持っている人たち、その中にこういう人も含まれますよということを書いている。Transvestites これ何かというと、異性装者のことを言います。なので、これだけパッと見ると、あたかも異性装の人、つまり女装した人もトランスジェンダーですよ、と書いてあるように、読めるんですよ。ですが、これよくよく考える必要があります。というのは、まず、トランスジェンダーというのはumbrella term と書いてある。どういうことかと言いますと、傘ですね。傘の中には様々な人が含まれますよ、と。様々な人がいるんですよということも見渡した概念になるんですね。で、この傘の中には本当に様々パターンがあります。トランスジェンダーの女性、トランスジェンダーの男性、あるいはノンバイナリーといって、ジェンダー表現がどちらでもないような人、あるいは、インドのヒジュラやネイティブ・アメリカンのトゥ・スピリット、そういった様々な人を見渡している、こういう言葉なんです。で、その中で確かにトランスヴェスタイトって書いてあるんですけど、ですが、この国連の定義というのは、国際的な機関による定義だということです。当然国によって、状況ですとか文化、社会のあり方が非常に違うわけなんですよね。当然そういった社会の中では、異性装する人っていうのは、非常に強い差別的な位置に置かれていたり、あるいは医療状況、ホルモン投与や手術、できないような国も当然あるわけですね。あるいは文化的にも、さっきちょっと言いましたけど、インドのカーストの中にはヒジュラっていうカーストがあるわけなんですね。そのカーストの人たちというのは、女装して生活していたりとか、あるいはネイティブ・アメリカンの中には、トゥ・スピリットと言って、男性性と女性性、両方持っているというふうに言われるような人たちがいるわけです。そういった社会の違い、文化の違い、あるいは医療状況の違い、そんなことも含めて、いろんな被差別的立場に置かれている人たちを包括してとらえていきましょうというようなことを書いているだけなんです。

当然ながら、趣味で女装している人や、あるいは犯罪目的で女装している人を、トランスジェンダーと言えるかというと、ちょっとそれ違うんじゃないのという話なんですよね。ところが、そういったことが書いてあることをいいことに、そういうふうに書いて、あたかもそういった人が女湯に入ったらどうするんだ、ということを喧伝するわけですよね。こういったことがあります。ここまで、トランスフォーブの特徴とか実例をご覧に入れました。かなり気持ち悪かったと思います。ですが、こういったものが、今、何千、何万とネット上で出されていますね。

誤った議論の特有の問題点

まとめなんですが、こういったトランスフォー

ブの宣伝する誤った議論の特有の問題点は次の通りです。まず、インターネット上で発生しました。ところが、ネット上だけじゃなくて、いまや、政治家や研究者、弁護士など、そういった人たちに対して怪文書がすでに配布されています。実際、弁護士会にもファックスが届いたりとか、いわゆるフェミニストと言われる弁護士の元に、トランスジェンダリズムは危険だ、という冊子が届いたりだとか、実害が生じているわけですね。あるいは、リベラル系社会運動への介入。というのは、さっきフラワーデモの話が、冒頭出ましたけど、自称フラワーデモの中にも、そういったことを主張するアカウントが出てきています。それから、先ほど見ましたように、特定の当事者に対する攻撃やバッシングがあります。私も結構、普段はこんな辛気臭い話じゃなくて、もうちょっと面白い話をしますので、講演とかよく行くんですけど、そういった講演のところへも、仲岡弁護士は変態だとか言ってるのに、なんで呼ぶんだとか、実際にされているわけですね。しかも、悲しいのは、一部の学者、著名人、政治家の中にも同調する人がいます。さっき、中の人が、自称マルクス主義フェミニストだというので紹介しましたけど、そういったフェミニストを標榜する方の中に、あるいは保守政治家の中にも、そういったことに同調する動きというのも現に生じています。

この流れって、ネット右翼がネットだけの存在から、行動する保守へ飛び出している流れと重なるように私は思っていて、非常に怖いなというところがあります。

ただ、ネット右翼以上にややこしい点があって、それが何かというと、表面上、反差別や女性の人権を掲げている、そういう点なんですよ。ネット右翼って、まあ言ったら、マイノリティ迫害の立場であり、右側であり極右であり、なんですが、このトランスヘイターたちには、リベラルな層が結構含まれます。で、フェミニズムやLGBTに隣接した場に存在しているわけですね。実際、私の友達の友達レベルで結構いるんですよ。あるいはもっというと友達レベルかもしれない。ちょっとショックだったのは、私と実際に面識のあるお友達、自称フェミニストのお友達のツイッターアカウントを久しぶりにのぞいてみると、さっきのようなトランスヘイト言動をリツートしまくっていたりするんですよね。これほんまかいなと思ったら、私に聞いてよって話なんですよ。なのに、ネット上のそういったものに感化されて、投稿してたりするわけです。

さらに典型的なのは、これです。既にネット空間を飛び出しているわけですけど、最近こういう団体が立ち上げられました。これもある弁護士、神奈川のある弁護士、滝本太郎という弁護士なんですけど。滝本太郎、オウムの事件やってた弁護士なんですけど、こんなものをツイートしています。「『女性スペースを守る会』が本日発足しました。誰でもどうぞ賛同人になってください。女性自認者の女性トイレ利用が『公認』され、実質どの男性も女装すれば女性トイレに入れたりする前に、止めないと」。女性スペースを守りましょうと標榜すること自体は別に批判はしませんよ。当然、そこが安全なものであればいいわけです。ところが、実際にやっているのは、女性スペースからトランス女性は出て行け、というだけの話なんです。当然、性犯罪者出て行けというのはわかるよ。だけど、トランス女性出て行けですから。トランス女性イコール性犯罪者じゃありません。なのに、こういったことを言って、弁護士がその事務局になって

いる。

さらに、いま衆院選の最中ですけど、衆院選の候補者、全国で1,000人ぐらいいるのかな。そのうち700人ぐらいに対して、アンケートをわざわざ送付しているんですね。そのアンケートみると、身体男性の女性自認者が女湯を使うことはいいと思いますか、みたいなことを書いてあるわけですよ。それ読んだ候補者としては、それはいかんよねとか書いたりとか、あるいは質問の流れに乗せられて、トランスフォビックな回答をしたりするわけですよ。それを、ほらほら、候補者たちもそうだと言って公表する、そういったことを実際にやらかしているわけですね。私、非常に危機感を抱いているのは、こういったヘイトが現実化していて、なおかつ政治の世界に対しても影響を及ぼしている。こういったことが本当に怖いなというふうに思っています。

それから、ここまで見てきた誤った議論の特徴なんですけど、まず、先ほどから申し上げているように、法律実務とか医療状況をすごく曲解するんです。こういったことちゃんと踏まえていれば、嘘だとわかるんですけど、多くの人は知らないでしょう。知らないから、こんなに恐ろしいんやと思って拡散する。あるいは、当事者から求められてもいない事柄が、直ちに現実化するかのように語られている。男性器ついたまま女湯に入れろとか言ってる人、いるかもしれないけど、それはメジャーなわけじゃないです。なのに、トランス活動家が、そういうことを主張していて、差し迫った危険かのように言うわけです。

あるいは、犯罪的事例や例外的事例の拡大解釈というのがありますね。属性への連帯責任というのがあります。もちろんトランスジェンダー当事者だって100人いれば100人とも聖人なわけではありませんから、その中には当然犯罪者いますよ。だけど、それって、ほかのマイノリティの問題でもそうでしょう。在日外国人の中に犯罪者いるかいないかって言われたら、それはいますよ。いますけど、そういう人がパラパラいるからと言って、全体が犯罪者扱いされたらどう思われます？それは差別ですよね。あるいは障害者の中にだって、犯罪する障害者だっていますよ。だけど、それを障害者全体が連帯責任問われたら、どう思うでしょうか？それは差別なんです。

あと、陰謀論ですね。今後こうなるかもしれないとか、今、議論されているLGBT法が成立したらこうなっちゃうと。あるいは、海外の真偽不明な情報の拡散というのがありますね。トランスフォーブの人たちの特徴として、海外ではこんな事件があった、アメリカでこんな事件があった、イギリスでこんな事件があったという情報を、海外のネットサイトとかから引っ張ってきて、ほらほらほらって言うんですよ。ところが、当然その情報源が、本当に信頼に値するのかどうかということは気をつけなければいけません。実は、英語で書いてあれば、あたかもすごいしっかりしたものかのように思うかもしれませんが、当然海の向こうにも、海外にも、タブロイド紙やスポーツ紙みたいなものがあるわけです。例えば、イギリスのデイリーメールとか、デイリーメールといっても皆さんご存知ないかもしれないですけど、日本で言うなら、東京スポーツとか、夕刊フジ、あの類なんですよ。ゴシップ紙ですよね。誰々がセックスしたとか、誰々がこんなスキャンダルがあったとか、そういう新聞なんですよね。あるいはワシントンタイムズ。聞いたことあります？ニューヨークタイムズじゃないよ。ワシントンタイムズだよ。

あるいは、ワシントンポストじゃないよ。ワシントンタイムズだよ。ニューヨークタイムズとかワシントンポストとかいうのは、一流紙ですね。ところが、ワシントンタイムズは何かというと、統一教会系の新聞です。超保守派の統一教会系の新聞です。そういったところから情報を探してきて、ほんまかいな、みたいなやつを、ほらほら海外でこうなってるんだというふうにやるんですよね。なので、本当にその情報というのが、信頼に値するものなのかどうかというのは、よくよく見ないと騙されてしまうわけですね。なので、私が思うのは、日本の実情に即したファクトチェックが必要だと思う。

あるいは、LGBT運動の側も、地に足のついた議論をしなければ揚げ足を取られるだけである。LGBT法案成立させましょう、みたいな動きありますけど、だけど、よくよくこういった反対側の動きも踏まえた上でやらないと、甘い見通しでやっちゃうと、絶対反動というかバックラッシュがあるわけです。それによって苦しむのは一般当事者なんですよ。

等身大の多様なトランスジェンダーたちについての認識不足

じゃあなんで、こんなトランスヘイトが一部で支持を集めるんでしょうか。まず一つの理由には、等身大のトランス像があまり認知されていないというのがあります。そういったゴシップ紙に出てくるトランスジェンダーというのは、何か、女子トイレに侵入しましたとか、女子トイレでこんな見せびらかしましたとか、そのようなのが出てくるんですけど、当然ながら、一般社会で生きている当事者というのは、多分一般社会人です。これ、実感することがあって、ある時、うちの事務所にトランスヘイターが来たんです。共通の友達の紹介で、「仲岡さん、最近私の友達がこんなんなっちゃって、話聞いてやってくださいよって、話ししてあげてくださいよ」って言われまして、「どうぞどうぞ来てください」と言って、実際に会ったんです。そこでそのトランスヘイターが、「トランス女性って危険なんです、トランス女性が女性に加害して、それで怖いんです」と言うんですよ。で、実際そんなことあったんかなと思って、「どういったことがあったの」って聞いたら、曰く、「私の友達がトランス女性からレイプされたんです」って言うの。「え、そうなの」って思って。そりゃ、レイプとかあればそれは深刻な問題ですから、「どういうことあったんですか、どういう友達ですか」と話を聞きましたら、「実際の友達じゃないんです」「ネット上で知り合ったんです」って。それネット情報やんか、みたいな。「じゃあ、そういうけど、あなたこれまで私以外で、トランスジェンダー当事者と会ったことあるの？」って聞いたら、「いや、仲岡さんが初めてです」みたいなね。おいおいおい。結局ネット情報だけやんか、みたいな話なんですよ。

さらに、なんでトランスヘイトが支持を集めるのか。一部の当事者の問題行動や問題発言の拡散があります。確かに、先ほどから申し上げているように、トランス女性というのがみんな聖人君子ではありません。その中には問題発言する人もいるし、何か挑発的なことを書く人もいますよ。だけど、これはネット上の有象無象だということを踏まえなければいけません。ネット上で、下品なレベルのことを書く人、いくらでもいるわけなんですよ。それは性別に限らずそうですよ。一度私、実験でツイッターに、いろいろわいせつな言葉とか、男を犯したいとか、男児は死ねとか、そういうNGワードみたいな言

葉で検索して見て、どれだけどういったアカウントが出てくるのかなとして見たことがあったんです。そうすると、女性のアカウントもそういったことを書いてたりするわけなんですよ。というのは、ネットですから、そういう、下品なレベルの話を書くんですよ。ところがトランスジェンダー当事者のアカウントとされるものから、そういうのを引っ張り出して来ては、「ほらほらほらほら」とやるんです。そういったものが拡散されてしまう。それによって、やっぱりトランスジェンダーって危険なんだって言いますが、「トランスジェンダーだけでなくみんなそうですよ」って話ですよ。

それから、イギリスやカナダの例ですね。確かに実際、イギリスで問題になったことがありました。トランスジェンダーの女性、ただ男性器がついたまま、それ本当にトランスジェンダーといえる人なのか、私はわからないんですけど、その方が女性刑務所に入れられて、女性受刑者に対してわいせつな行為をした、性暴力をしたという事件がありました。確かにありましたし、そういったことは絶対に防がないといけないと、当然思います。ですが、その事件があったからといって、みんながそういう人なんでしょうとなってしまう。

私、女性受刑者に対してわいせつな行為をするトランスジェンダー、そんな人がいたら当然怒りますよ、その人に対して。だけど、その人と私は別人格なんですよね。その罪が私にあるわけでは全くありません。あるいはもっと言うと、そういった当事者を、どういうふうに刑務所に処遇するかというのは、当然ケースバイケースです。というのは、トランス女性みんな男性刑務所に入れたらいいのかというと、当然トランス女性の側が、性被害に遭う可能性があるわけですよね。あるいは、何れにしてもトランス女性はみんな女子刑務所に入れたらいいかというとそういうことではありません。何かのデータで見たんですけど、アメリカやったかイギリスやったか忘れましたけど、トランスジェンダーの受刑者が1000人ぐらいいると。その中で、女性刑務所に入れているのは十数人であると。わかります？だから、トランス女性といえばみんな女性刑務所かというと、そんなことではないんですよ。個別具体的な判断なんですよ。

カナダの例というのは何かというと、カナダに、いわゆる迷惑系トランスジェンダー当事者というのがいまして、その人、男性器がついたまま、陰毛の脱毛をして欲しかった。それでスタッフが女性だったからそれを断ったらしいです。それに対して、自分の陰毛を脱毛しないのは差別だといって、訴えたという、迷惑系の人がいるんですね。実際裁判やって負けてますから、これ。なので、トランス女性といえばなんでも女性として通るというわけじゃないんです。

たしかに今の社会というのは、女性に差別的な社会です。不公平感や被害感情があるのはわかりますよ。ですがそれを向ける方向が間違っています。「トランス女性はズルい論」ですね。トランス女性というのは筋力が恵まれていて、妊娠もしないですんで、社会的地位もあって、そういった人たちに女の場が奪われてしまう、こういった「ズルい論」があるんですけど。

筋力あるかどうかってかなり個人差すごい大きいですよ。私のいる事務所に弁護士は４人いるんですけど、ほかの３人、女性です、いっぺん比べてみようと思って、私の手とほかの３人の腕を比べて見たんです。私が一番細かった。実際女性ホルモン打つと、身体状況、筋肉のつき方って女性化していくんです。なので、ムキ

ムキマッチョなトランス女性がどれだけいるかと言われたら、かなり少ないんじゃないかと思います。妊娠しないで済むって言うんだけど、じゃあ、不妊症の女性って、それ特権持ってるんですか？違いますよね。不妊で悩んでらっしゃる女性っているわけですよね。あるいはトランス女性の当事者って、多くの人、妊娠出産できないわけなんです。私の場合、子ども欲しくてもできないんです。これが特権なんですか？ズルいんですか？妊娠出産機能というのは、いらない人にとってはいらないものです。ですが、欲しい当事者からすれば、できないんです。そういう選択肢って奪われてるんです。なのに、それが、妊娠しないからズルイとか。社会的地位がある、って言われるけど、たしかに、私も含めてかもしれないですけど、公の場に出てくる当事者って、社会的地位が高いことが多いです。大学の先生とか弁護士とか、あるいは、芸能人だとかですね。ですが、それがみんな、トランス女性が全員そうというわけでは全くないです。むしろ、一昔前だったら、就業の機会って非常に制限されていたんですよ。好むと好まざるとにかかわらず、夜の仕事しかなかったという時代があります。じゃあ、そういう中で社会的地位が高いって言われて、「いやいやいや、就職の差別受けてるのに何がやねん」と思うわけですね。

ヘイトに同調するトランスジェンダー当事者も

またちょっと悲しいのが、トランス当事者の中でさえ、こういったトランスヘイト、トランスフォーブにおもねる動きがあります。わかります？トランス当事者なのに、トランスヘイト側について、一緒にトランスヘイトやるんですよ。不思議だと思いません？ですが、これマイノリティの性質考えれば、ある意味そういった人も出てくるんですよね。なぜかというと、差別者の側につくことで差別を回避しようとする心理、こういったことってマイノリティ当事者にあるんです。他の問題考えてください。在日コリアンの中にも日本国籍とって、私は立派な日本人だと、帝国臣民だと、天皇陛下万歳、こういうような方もいるわけですよね。なんでかというと、差別的な社会の中で、マジョリティ側につくことによって、自分の身を守ろうとする当事者、いるんですよ。そのことによって、トランス当事者の間に分断が生まれているという状況もあります。

あるいは「真のGID論」というのがそれに利用されている。多分皆さん、この「真のGID論」って言われても、何のこっちゃらと思うんですよ。これ当事者の間では、20年前からある議論なんですが、何かと言いますと、GIDってgender identity disorder 性同一性障害のことを言います。20年ぐらい前からマウンティングってものがあったんです。当事者の中でも。何かというと、「私は真の性同一性障害の当事者、あなたは女装でしょう？だから違う」、こういう当事者の中でもマウンティングがあった、昔はあったわけなんですよね。その中では一番えらいのは戸籍まで変えた人。二番目にえらいのは手術した人。三番目がホルモン打ってる人。四番目が診断書もらったばっかりの人。一番最下位が女装だけの人。みたいにね、ヒエラルキーがあったんですよね。外部からすりゃ、なんじゃそれ、でしょう？だけど、当事者の中は真剣にこういったものが繰り返されていて、それによって当事者たちは20年前から疲弊してしまってるんです。さすがにそういった議論というのは、20年前の特例法ができた頃の話だったはずなんですが、ま

たこれが復活してきている。私は戸籍まで変えたんですから、トランスジェンダーではありません。あなたたちは女装トランスジェンダーだから、差別されても仕方がない、みたいな、そういう分断が生じているわけですね。トランスヘイトによって悲しい現実が起こっている。

合理性の有無で差別かを考える

そもそも先ほどから申し上げているように、トランスジェンダーというものが、すごい極論を言って、女性スペースを侵害しようとしてるみたいに言うんですけど、しかもそれを注意すると、差別だと言われるというふうなことが、まことしやかに書かれてるんですけど、そもそも差別って一体なんやねんという話です。あたかも、その人の性自認を尊重しなければ、性自認通りに扱わなければ、つまり女やと言ったら、すべて女として扱わなければ差別になっちゃう、かのようなことが言われてるんですが、当然ながら、性自認を尊重するということは、あらゆる局面において、当人の自称する「性自認」通りに扱わなければ、差別に当たるということまで意味していません。

北斗の拳のケンシロウが「俺は女だ」と言いながら女性トイレに入ってきたら、それは問題になるよ。わかる？ラオウが、「わしは女じゃ」とか言って女湯に入ってきたら、それは問題になるよ。当たり前やんって話よね。なぜネット上だけ混乱するんですかって話です。なので、その時のケースバイケースです。差別に当たるかどうかというのは、個別具体的な事柄において、それが不合理と言えるかどうかの問題であって、そこに合理性があれば差別ではないし、合理性を欠くものであれば差別ですよと。なんでこんな当たり前のことを、今更言わなきゃいけないんですかって話なんです。わかりますよね。なので、北斗の拳のケンシロウが、「俺は女だ」と女湯に入ってきたら、立ち入り拒否してください。逆に、戸籍変更前であったとしても、性別適合手術していなかったとしても、社会生活実態が女性であり、なおかつ犯罪目的でも全くなかったら、女子トイレ使うことに別に問題ないんです。それが合理的か不合理か、そこなんです。トランスヘイトの煽動者は、この大前提を無視して、極論があたかもトランス当事者ないし「トランス活動家（TRA）」の総意かのように偽装している。こういった偽装された結論があるわけです。

個々人ごとにあるトランジション

そもそも論なんですけど、よくこう言われます。トランスジェンダーっていうのは、心の性と体の性が一致しない、そういうふうによく言われるんですけど、私はこれは誤解を生みかねない表現だと思ってます。というのは、トランジション、性別移行というのは、まさに移行していくものなんです。性別移行というのは、段階を踏んで移行されていくものなんですよ。具体的にはこうしてプロセスを踏んでいくわけなんです。ではまず、社会生活実態の変化ですと、先ほどから申し上げているように、ケンシロウがいくら俺は女だと言ったところで、社会生活実態ともなっていなければユリアにはなれないんです。

トランジションのなかでは、周囲との関係性というものが変化していきます。古久保先生、私のことをイメージしていただければわかると思うんですけど、学生の頃は、最初申しあげたようにヒゲ生えてましたから。それで、僕は女だと言いながら女子トイレに入っていく、「それ

は仲岡さん、やめときや」って言うでしょう。そうなんですよ。だけど、段階の中では、本人の状況だとか周囲との関係性とかを変化していくことによって、トランジションというのが行われていくものなんです。なのに、あたかも、さっきのヘイターたちは、今日から俺は女、と言ったら、女として扱わないと差別になる、だからこれは危険だ。「違うわ」ってなりますよね。

あるいは、性別適合手術については、まずは診断受けます、それからホルモン投与受けたり、性別適合手術をしたり、法律上の性別の変更、こういったプロセスがあるわけなんです。段階があるわけなんです。そういった段階踏まえながら、当事者は生きているわけで、段階に応じてケースバイケースなわけなんです。しかもこれは、相応の時間をかけて行われるものです。１週間ですべて変わるわけでは当然ありません。或る日突然切り替えられるようなものではありません。もっと言うと、移行の態様や程度というのは、その人の置かれている環境によって本当に様々です。というのは、診断よりも、ホルモンを海外から輸入したりとかで、先にホルモンやってる人もいますし、そのへんは前後したりだとか、人によってここまでしかいけなかったりとか、ここまでは行けるとか、あるわけなんですよね。あるいは手術するとかなった場合に、お金と時間と周囲の理解が必要ですから、そういった条件が揃って初めてできるものもあったりするわけですね。なのに、さっきの滝本太郎みたいな弁護士なんかは、体のパーツが爪を切るかのように、ポンとできるかのように言ってますけど、そうじゃありませんから。なので、状況によって、態様の程度によって、どういった施設利用が適切かはケースバイケースです。

トランスジェンダーをめぐるありがちな誤解

ここからQ&A形式でいきましょう。トランスヘイターやそれに影響されてしまう人からのありがちな疑問や質問、Ｑ１です。「性自認を尊重すると、女性を自認した男性が女湯に入れるようになる」？なるんでしょうか？さあどうでしょうか。答えです。

私も、弁護士会のPTで調査したんです。性同一性障害PTってあります。そこで調査した限り、少なくとも東京の公衆浴場組合では、戸籍変更の有無にかかわらず、性別適合手術の有無を基準とします。どういうことか。戸籍上性別変更しているのと性別適合手術をしているのとはイコールじゃないです。当然ね。他の要件や手続きをしなかったとかによって、戸籍上は男性だけど身体上は女性化している方もいるわけですよね。なので、要するに男性器がついているかどうか、そこで判断しますというふうに回答が得られました。で、これが果たして合理的かどうかと言われたら、不特定多数が裸体を晒す場である以上、合理的な対応であると思われます。そして、そのことを前提にすると、性別適合手術を経ていないトランス女性の場合、何らかの合意を得ているとか、そういった特別の事情がない限り、管理者からすれば望まない立ち入りなので、意思に反する立ち入りとなり、建造物侵入となる可能性が高い。少なくとも立ち入りを拒否されるでしょうね。ということなんです。なので、私はこれは別に差別に当たらんと思いますし、実際の運用もこうなわけです。東京都以外でもおそらく同様の扱いを受けるか、少なくとも各事業者の管理権限に委ねられるでしょう、というのが私の見解です。なので、こういう実際の運用があるので、女湯に入ってくる、入ってくる、入ってくるって騒がなくても、こ

ういうふうになってるんだからって話なんですね。

ありがちな質問その２。「トランス女性が女性用トイレを使うのは違法である」？。

なんか、私の方向を捻じ曲げて、トランスフォーブの人たちは、「仲岡弁護士でさえトランス女性が女性トイレを使うのは違法だと言っている」みたいな、どこでそんなこと言ってるねんっていうことを拡散するんですけど。答え、そもそも、戸籍上の性別や性器の形状と合致するトイレを使わなければならないという法律は、そもそも存在しません。で、実際私、大阪府警にヒアリングしたことがあります。戸籍変更前のトランス女性による女性用トイレの使用が直ちに違法なものとは扱っていませんということでした。何が問題かというと、盗撮など違法な目的や態様では建造物侵入になるんです。なので、そういった違法な目的や態様かどうかは個別の判断ですよね、ということなんです。だから実際問題として、例えば男性が、トランス女性でもないのに、男性が、ケンシロウが女子トイレ使ってたら、なんで入ってくるのかってなりますよね。だから、立ち入り止めてねっていうレベルの話なんです。逆に、戸籍上の性別や性器の形状で振り分けた場合、かえって大きな混乱が生じます。どういうことかというと、当然戸籍上の性別と、外観上の性別や社会生活上の性別はイコールじゃないですよね。あるいは性器の形状って、みなさんパンツ脱ぎながらトイレに入るんですか。個室で脱ぐでしょう。

特に、あまりトランス男性の存在というものが想定されてないんですよ。どういうことか。トランス男性って、男性ホルモン打つでしょう。本当に、もともと、生まれつきの男性と見分けつかないレベルで男性化するんですね。ヒゲ生えてきます、筋肉質になります、声低くなります、じゃあそういうトランス男性が、まだオペしてないから、あるいは戸籍変更していないから、女性トイレに入ったらどうなると思いますか？それこそ通報されるんですよ。なのでそういった状況を、リアルに想像できていらっしゃいます？っていう話なんですよね。あるいは、みなさん、ちょっとニューハーフクラブにでも行って見てください。結構ニューハーフの方って、オペしないって方も多いんですよね。なぜかと言うと、それが職業的な、金銭につながることがあるからです。だけど、ぱっと見、女性でしか見えない人ってたくさんいますよ。そういう方が男性トイレに入ったら、逆にトラブルになるんですよ。「そういう実態わかってらっしゃる？」なんですよ。なので、別に戸籍上の性別と違うトイレに使ったからと言って、直ちに違法ではないですが、ただ、あまりにも周囲になじまない格好の場合、問題となるリスクがあるので、多くの当事者は自分に見合った方を使っているのが実情ですね。

私も、今は女子トイレ使ってますけど、当然ヒゲの生えていた仲岡君から、今のしゅんちゃんに至っているわけで、その中でいろんな工夫をしながら生きてきたわけですよ。そんな中では、あるとき男性トイレに入ったらどんなことが起こるかというと、例えば私こうなってからも、結構男子トイレ使ってましたから。ある日、男子トイレ、誰もいないかなと思って、恐る恐る、扉をキイって開けるんですよ。あ、よかった、今男子トイレ誰も入ってないわと、誰も入ってない間にさっと入って個室でして、やれやれと思って手を洗ってると、そういう時に限って、間の悪いおっちゃん、ガチャって入ってくるんですね。おっちゃんの立場からしたら、男子ト

イレやなと思って入ってきて、ところが私みたいなのがいる、おっちゃん、一瞬固まって、「すみません、間違いました」って言って男子トイレ飛び出して、そのおっちゃん、反対側にある女子トイレに飛び込んでいくんですよね。なので、混乱したおっちゃんが女子トイレにズカズカ入っていくという侵入が起こったわけなんですよ。男子トイレ使ったらまずいでしょう。そういうことなんですよね。なので、そういう実態を踏まえずに、形式的に議論するというのは非常に問題です。

三つ目ですね。「LGBT法案が成立すると、女性を「自認」した男性が女性トイレや女湯に入れるようになる」？これ、結構言われるんです。というのは、私が１年ぐらい前に、今の運用こうですよという投稿を、古久保先生のやってはるWANに投稿したんですよね。それでもなお、トランスヘイターたちは、でも、今はそうかもしれないけれど、LGBT法案が成立するとこうなってしまう、と言うんですよね。じゃあLGBT法案が成立すると、そんなふうに天地がひっくり返るんでしょうか。

答えです。そんな議論全くされていないし、法案からも読み取れません。野党案と与党案がありますよね。与党案は、理解増進法、野党案は差別解消法です。その中でより進んでいる方の野党案を見て見ましょうか。野党案、抜粋なんですけど、第四条、「差別の解消等の推進に努めなければならない。」それは結構だ。第五条は、こう書いてあります。「必要かつ合理的な配慮を的確に行うため」云々、と書いてある、わかります？必要かつ合理的な配慮ですよ、それだけしか書いていないんですよ。そんな、女湯入れるとか書いてないんですよ。どこにも書いていない。あるいは、ほかにも、ほかの節見てみても、雇用分野で差別したらいかんよとか、学校で差別したらいかんよとか、そういうことしか書いていないんですよ。一体どこに、今日から俺は女って言ったら、ケンシロウでも女子トイレに入れなあかんって書いてあるんですか？書いてないでしょう。もう馬鹿馬鹿しい。

四つ目です。「性別の「セルフID」化が進められている」？

セルフIDって何でしょうか。セルフIDっていうのは、トランスジェンダリズムという言葉と並んでよく使われる言葉なんですが、「今日から俺、女」って自称したら、その人は女として扱わなければならない、法的にもその人は女になってしまう、こういう妄想をセルフIDって言うんですが、ですが、今の日本でそういった動きはありません、国政レベルで。というのは、そもそも今法律上の性別変える際に、先ほどから申し上げている性同一性障害特例法ってありますよね。で、性同一性障害特例法って、先進国の中ではめっちゃ遅れている法律なんですよ。世界で唯一の、未成年子なし要件、つまり未成年の子どもがいたら性別変更できないという要件があったりとか、同性婚ないので、非婚要件、そういったものがあります。こういったものすら撤廃されていないのに、あたかも、すぐに、「今日から俺、女」って言ったら性別変更できる、かのようなことが言われていますが、全くそんなの実現の見込みはありません。ちなみに、先ほどの手術要件については、当事者の間でも賛否があります。当然撤廃してほしいという動きもありますし、逆に撤廃しなくてもいいという発想もあります。

特に、トランス男性当事者からのニーズが高いんです。なんでかというと、トランス女性の場合、要するに出っ張ってますよね、出っ張っ

てるものを取るわけでしょう。ところがトランス男性の場合、内部にあるものを取るんですよ。わかります？内部にあるものを取らないと、戸籍を男性に変えられないんですよね。そうすると、トランス男性からしたら、外観何も変われへんのに生殖器もとって、取らなきゃ男性としての戸籍が得られないと。もうヒゲも生えてるのに。こうなるわけなんですよね。なので、手術要件撤廃についてはいろんな議論がありますけど、トランス男性当事者からのニーズが高いです。

もっとも、仮に手術要件撤廃論を採用するんだったら、その前提として代替要件とか、適切な施設利用についての議論が必要なんだけど、具体的な立法的議論が深められている様子は見受けられません。当然、今の日本社会って非常に保守的ですから、仮に手術要件撤廃するんやったら、そこに至るまでに様々な議論をしないと絶対とおりませんよ、これは。実際問題として。理想論じゃなくて。だから、これ本当に通したいと思うんやったら、そこの代替要件とかの議論とかしなきゃいけないのに、残念ながら、今の手術要件撤廃論主張してる人たちの間では、こういったものが行われている形跡あまりない。で、実は私も含めてなんですけど、弁護士や研究者や当事者、ちょっと集まって代替要件の議論しましょうかという議論は一部ではしています。ただ、一部ではしてるんだけど、どちらかというと、慎重な人たちの間でやっているわけです。そこで、楽観的な人たちがどれだけしてるかというと、私は結構懐疑的ですね。

それから次、これもよくあります。「トランス女性が女性スポーツに出場してメダル取りまくってる」？さあ、どうでしょうか。

これ当事者の間で様々な議論があります。ただ少なくとも言えるのは、トランス女性が無条件に出場して、無双しているという状況にはありません。まず、競技スポーツというものと学校教育レベルでのスポーツとを分けて考える必要があるんです。というのは、当然未成年の当事者の中には、オープンにしていない当事者もいるわけですね。そして埋没して生きている当事者もいるわけです。じゃあ、その子がトランス女性だから、女子スポーツから排除しましょうってなったら、まさにアウティングになるんです、これ。学校教育の機会が奪われるわけなんですよね。なので、競技スポーツでプロの話と、学校教育の話と分けて考える必要があるわけです。あと、オリンピックの場合、出場要件があって、別に無条件というわけじゃないです。テストステロン値の要件があります。で、あと絶対数が少ないので、メダル取りまくっているという状況にはありません。ちなみにこれは私の意見ですが、仲岡は、社会的合意が十分とは言えない現段階では、トランス女性の女性競技スポーツ参入には慎重な立場である。で、むしろ、スポーツの性質によって、業界団体ごとに基準や枠を設けるなどすべきではないかというふうに、私は思っています。この辺は様々な議論があっていいと思うし、現にあるわけですね。ただ少なくともメダルを取りまくっているということはないわけですよね。オリンピックは重量挙げの選手出てましたけど、あれ金メダル取りました？取ってませんよね。

トランスジェンダーをとりまく問題の特徴

ここから、トランスジェンダーの、今の制度や問題、ある種の権利の問題、差別の特徴、そういったところに話題を移そうと思います。これまで、トランスフォーブについて見てきまし

たけど、トランスフォーブだけの話するのもなんかね、辛気臭くてめっちゃ嫌なんで、それ以外のことです。

地縁・血縁の欠如と当事者ネットワークの貧弱

まず、差別と排除の特徴という点についてご紹介したいと思います。当然、他のマイノリティの問題と共通点はあるわけですね。例えば、先ほどから言っていますように、犯罪的事象との混同。在日コリアンの人がなんか事件を起こしたら、まとめサイトとかできて、在日コリアン全体が悪いかのように言い募る、ネトウヨが。同じことトランスジェンダーにされているんですよ、今。そういうようなところでは、非常に共通項はあります。

他方で、LGBTへの差別特有の問題というのもあるんですね。まず何かと言うと、地縁、血縁的な関係の希薄さというところがあるんです。家族が味方とは限らない。例えば被差別部落や民族的マイノリティの場合、家族の中で同じ属性を背負っている人がいるわけです。そうすると家族の中に理解者がいる。ところが、LGBTの場合、異性愛の親から同性愛の子どもが生まれたり、トランスの子どもが生まれたりするわけです。そうすると、家族の中で味方がいないという状況が生じちゃうんです。私も結構学校とかに講演行くこと多いです。そこで終わった後、当事者の子から、個別に話がしたいと言われて、話を聞くんですね。一番ある質問、一番よくある悩みは、「まだ親とか友達には言ってないけど、どうしたらいいでしょう。」ってそこなんですよ。孤立化しやすいんですよね、この問題って。

なおかつ、地縁、血縁がないということは、当事者同士のネットワークが結構貧弱なんです。特に地方、特に田舎。東京とか大阪の場合やったら、そういった交流会とかもあるでしょうし、当事者グループもあるでしょう。しかしながら、かなり、田舎の人口の少ないところに行っちゃうと、村社会の中で孤立しちゃってるというケースがやっぱりあるんです。私も結構いろんな地方に呼ばれて行くんですけど、そういう実情ありますね。じゃあそういう時に、どういう手段で他の当事者と繋がろうかと思った場合、出てくるのがネットです。ところが、ネットの中では、さっきみたいなことが何千、何万とされている。その中で悩んでしまうという子もいるわけです。

あと、医療的アクセスのしにくさという問題もトランスの場合ありますね。東京、大阪の場合やったら、医療的アクセスできるところ、結構あります。ただ本当に地方なんか行ったら、ホルモン注射するのに、車で２時間かけて行って、泊りがけで行かなければいけない。そういうところもありますから。そういう実情あるわけですね。

ハラスメントの存在

トランスフォーブの人たちは、あたかもトランスジェンダーってわがまま言って、暴れているかのように言うわけなんですけど、実際には職場でハラスメントにあうことも多いです。たとえば、私の担当している事件ですが。性同一性障害で性別変えた人がいるんです。男性から女性に。ところが性別変えてからも、他の従業員から、あの人元男やったんでしょう、みたいなことをアウティングされている。あるいは、あの人が女性更衣室使うのおかしいの違うの、みたいなことを言われたり、見せて、とか言われたりとか、で、精神的に参ってしまって飛び降り図った。というようなパワハラがあるわけなんですよね。実際、労災認定も最近されました。

なので、何か、自称トランス女性がわがまま言って、現場をかき乱しているかと言うと、実際にこういうふうにいじめの対象になっているということもあるわけなんですよね。なので、トランスフォーブの現実というのは、リアルを捉えていないと思います。

医療をめぐる問題

あと、医療の問題について少しお話しします。最近、WHOの国際疾病分類というものから、性同一性障害が疾患というカテゴリーから外されました。脱病理化という流れがあるわけです。これまで病気だ、病気だ、障害だ、障害だ、そういう強いスティグマ、日本ではあまりないにしても、海外ではあったわけです。なので、精神疾患というカテゴリーから外されて、新しいカテゴリー、「性の健康に関連する状態」というふうに入れられました。性別不合というふうになりました。トランスフォーブの中には、こういう動きをもって嘘を言う人がいるので注意です。どんな嘘がと言うと、「もう病気じゃなくなったんだから、保険適用はされないよね」「それは性同一性障害の人にとっては、不幸なことだよね」「だから皆さん、性同一性障害の人も含めて、トランスジェンダリズムというものと闘いましょう」、というふうに言う人がいるんですが、嘘ですからね。この精神疾患から外されても、疾病分類の中には入ってるんですよ。そうすると、保険適用、医療の対象であるということは、別にそこまでは外していないわけです。なので、精神疾患でなくなったからといって、直ちに保険適用外されるかというと、そういうことではありません。

ただ問題はまだあって、トランスの医療って様々な医療があるわけです。精神科領域の医療もあれば、身体的治療としてホルモン療法だとか性別適合手術、乳房切除、こういったことがあるんですけど。この中で、性別適合手術、これは一応、形式上は保険適用の対象になっています。ところが実際は、保険適用されないんです。なぜでしょうか。実は、ホルモン療法が自由診療扱いなので、ホルモン療法と性別適応手術を組み合わせることによって、全体が混合診療になっちゃうんですね。混合診療になっちゃうと、保険適用対象外なんです。なので、保険適用で性別適合手術ができた例というのは、国内で本当に数件です。その数件何かと言うと、ホルモン療法すっ飛ばしていけるような、特別な事情があったとか、そういうケースだけなんですよね。なので、いまだに、当事者の多くは150万から200万ぐらいのお金をかけて、手術をしなきゃいけない状況にあるわけなんですね。さっきの「女性スペース守る会」、「男性器ついている人はいかん」とか言うけれど、「それ言うんやったら、お前、200万出せや」という話なんです。

あと、性別適合手術は、これ認定施設でしかやれないけれど、認定施設が限られています。さっきも申し上げたように、医療機関の不足は深刻です。

あと。「トランス女性は婦人科に来るな」という声が、ネット上ですごい流通しています。婦人科にトランス女性が来る、婦人科の子宮も卵巣もないくせに、と言うんだけど。だけど、ホルモン剤って、婦人科で扱ってるんですよ。なので、私も含めて、少なからずのトランス当事者は、婦人科でホルモンを打っているケースが多いですね。GID学会の中塚先生なんかも、元々は産婦人科ですからね。ホルモン治療に関してはほかに、刑事施設収容者に対するホルモン療法が国の責務から外されているという問題もあ

ります。なので、刑務所入っちゃうと、健康維持に必要なのにホルモンを打ってくれない。ということなんかもあるわけなんですね。

最後、トランスの問題として子なし要件について話したかったんだけど、時間足りないのでこれはまたの機会にいたします。今、やってる私の案件なんで、お話したかったんだけど、また、次回にさせてもらいます。そういうわけでなんか中途半端な終わり方なんですけど、以上というふうにさせていただきます。すみません、最後の方駆け足になっちゃって。

＜古久保＞

仲岡先生ありがとうございました。

（質疑応答については割愛）

トランスジェンダーの方がおかれた状況や抱える問題を考えてみると、「それは権利だ」と主張することと、実行することとの間にわりと距離があるんじゃないかなとは思うんです。言うけどしないっていう選択をしている人ってたくさんいますよね。本当はやっぱり、性自認、ジェンダーアイデンティティに沿ったトイレに行きたいけど、今はトランジションの途中だし、トラブルが起こる可能性が高いから行かない。でもやっぱり、性自認でトイレに行けるような社会の方がいいと思うし、「それはトランスの権利なんじゃないか」と主張ということはあると思うんです。主張ということは、表現の自由とか、信条の自由とか考えると、それを表現するのを責めるのもおかしいんじゃないかと思ってて、ただ実際に実行するとトラブルこともあるわけですよ…。実際ほとんどの当事者ってそこを判断して、トイレ問題でもそれぞれに考えているわけですよね。だから、「トランス女性が女子トイレに入るのは権利なんだ」と公言している人ですら、実際は入ってないということもあるし、言ってることと、現実に立ち向かうというか、順応するというか、現実の中で生き抜こうとすることとの間の距離みたいなものが現実にあるのに、それをごったごたにしてしまっている言説というのがすごく多いんじゃないかなというふうに、私は最近思うようになっています。

そのあたりのトランスジェンダーのおかれた状況や抱える問題について、今日、仲岡先生からと当事者の実生活のあり方をいろいろ教えてもらって理解が深まりました。

私も「婦人科ってどうして行くの？」みたいな質問を仲岡さんに個人的にこっそりしたりして、「それはね、ホルモン治療するんだから行かざるを得ないでしょう」って教わったりもしています。それで、「そうか、そうだよね」って納得するんですが、一つ一つ教わらないと分からなくて、一つ一つ聞いて、当事者に答えさせるという暴力性みたいなのを感じるんだけど、それでも教えてもらわないとわからない部分もあります。あんまり聞いたら本当に暴力的だなと思うんだけど、それでも所々で当事者の人から話を聞いて、「こんなふうに誤解してたんだな」とか理解を深めていきたいと思います。おそらく個別の人が抱える問題はそれぞれ異なることもあるでしょうし、「わかったつもり」にならずに、一つずつ知り続けるというような努力をしていけたらいいなと思っています。

本日のサロンde人権はここまでにしたいと思いますが、トランスジェンダーをめぐる人権問題については、引き続き、、継続して議論できる場を作っていければと思っています。今日は本当にご参加いただき、ありがとうございました。これからも連続した議論にお付き合いただけた

らと思います。仲岡先生、ありがとうございました。

＜仲岡＞

　最後の古久保さんのまとめ、よかったですね、ほんと。そこ、折り合いつけてますから、当事者の側も。折り合い付けてるのに、お前ら、こうだ、みたいな…。ありがとうございました。

＊うるわ総合法律事務所　弁護士

【注】

1）当日には、パワポで様々なSNS上のヘイトスピーチや差別的画像が紹介されたが、本稿においては割愛している。WEBで本稿が公開されるということを考えた時、再度ここから拡散されることを危惧しての、編集の判断である。仲岡氏はほとんどのツイッターの文言や画像について講演中にことばで説明しているので、事実を理解するのに問題はないと思われる。以後仲岡氏の講演録の中で「右」「左」などの指示語が散見され、そのことは当日示したデータを示しているのではあるが、その画像がないことをお断りしておきたい。